

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 35, No. 10 October 1989

泌尿器科紀要

第35巻 第10号 1989年10月

【原著】

腎細胞癌のマーカーとしての Immunosuppressive Acidic Protein (IAP) の有用性について	星野真希夫・ほか	1647
フローサイトメトリーを用いた尿路性器腫瘍の Bromodeoxyuridine (BrdU)/DNA 同時解析法	島袋 智之・ほか	1653
尿路上皮癌腫瘍マーカーとしての睪分泌性トリプシン・インヒビター	田代 和也・ほか	1659
腎盂尿管腫瘍の臨症病理学的検討	米田 文男・ほか	1665
腎盂尿管癌の治療成績	丸岡 正幸・ほか	1673
Oval 型尿酸カルシウム結晶の研究	戸塚 一彦・ほか	1679
尿管狭窄に対する Endourological Management	山本 晶弘・ほか	1683
膀胱癌の病理組織学的検討—生検標本と全摘除術施行全層標本との比較—	宮本 憲治・ほか	1687
初診時骨シンチグラフィによる前立腺癌骨転移症例の予後の検討	久保田洋子・ほか	1693
50歳以上の男子における前立腺症の検討		
—第2回端野町前立腺検診の結果の検討から—	塚本 泰司・ほか	1701
前立腺肥大症患者の手術と予後についての検討	村瀬 達良・ほか	1709
思春期早発症例の検討	南部 明民・ほか	1715
Chlamydia trachomatis 診断試薬としての Chlamydia Testpack の有用性	岩佐 嗣夫・ほか	1721

【症例】

後腹膜形質細胞腫の1例	高野 右嗣・ほか	1725
小児男性化副腎皮質腫瘍の1例	仲川 嘉紀・ほか	1731
長期透析患者に発生した腎癌の1例	池上 雅久・ほか	1737
TAE を契機として発症した腎細胞癌腫瘍内感染の1例	河原 優・ほか	1741
両側性腎癌の1例	安永 豊・ほか	1745
Congenital Mesoblastic Nephroma の成人例と思われる		
巨大腎過誤腫の1例	小川 修・ほか	1749
腎血管筋脂肪腫の1例 —本邦429例の統計的考察—	林 祐太郎・ほか	1755
腎動静脈奇形に対し Transcatheter Arterial Embolization を施行した2症例	森田 照男・ほか	1761
腎盂尿管外への尿自然溢流の3例	石坂 和博・ほか	1767
盲端二分尿管の1例	山田伸一郎・ほか	1773
外尿道口より突出した尿管管囊腫の1例		
—本邦報告172例についての統計的観察—	菊地 悦啓・ほか	1777
試験開腹後27年を経過してセミノーマの発生を見た		
混合型性腺形成不全症の1例	内田 亮彦・ほか	1781
精巣網膜癌の1例	大東 貴志・山本 正	1787
停留睪丸に発生した睪丸腫瘍の2例		
—本邦報告179例についての統計的観察—	菊地 悦啓・ほか	1791
両側精細胞性睪丸腫瘍の1例 —本邦報告136例の臨床的検討—	入澤 千晶・ほか	1795
小児精索横紋筋肉腫の1例	河原 優・ほか	1801
精索転移をきたした胃癌の1例	入澤 千晴・ほか	1807
持続性勃起症を呈した悪性リンパ腫の1例	朝倉 博孝・ほか	1811
睪丸類表皮嚢腫の2例	内田 欽也・ほか	1815

【治験】

Immunoenzyme assay 法による前立腺性酸性ファスファターゼの臨床的検討	吉田 和弘・ほか	1819
経尿道的前立腺切除後の膿尿について —NFLX 使用における検討—	谷合 信行・ほか	1823

泌尿器科紀要

Advisory Committee

阿曾 佳郎 熊本 悦明 園田 孝夫 田崎 寛 前川 正信
町田 豊平 宮崎 重

Editor : 吉田 修

Deputy Editor : 竹内 秀雄

Associate Editors

大川 順正 折笠 精一 熊沢 淨一 小磯 謙吉 友吉 唯夫
渡辺 決

Editorial Board

生駒 文彦 上田 豊史 碓井 亜 大江 宏 大島 伸一
大島 博幸 大田黒和生 大野 良之 大森 弘之 岡 隆宏
岡島英五郎 岡田謙一郎 岡田 裕作 岡本 重禮 香川 征
垣添 忠生 片山 喬 加藤 哲郎 守殿 貞夫 河内 恒雄
河田 幸道 河邊 香月 川村 寿一 川村 猛 桐山 奮夫
栗田 孝 桑原 正明 郡 健二郎 古武 敏彦 小松 洋輔
小柳 知彦 近藤 厚生 酒徳治三郎 桜井 勲 里見 佳昭
島崎 淳 白井 将文 瀬川 昭夫 田中 啓幹 津川 龍三
土田 正義 東間 紘 中田 瑛浩 名出 頼男 東原 英二
久住 治男 平尾 佳彦 三品 輝男 宮川美栄子 三宅 弘治
宮崎 一興 矢谷 隆一 八竹 直 山田 英寿 山辺 博彦

Managing Editor : 松田 公志

Language Editor : 貝原 純子

Secretary : 太田 賢

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都 5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1989年3月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨症統計、そのほかで英文または和文とする。原著、症例報告、臨床統計などは、他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
 - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)までとする。
 - (3) 和文原稿はできるだけワープロを使用し、B5版用紙に20字×20行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めに来る場合は大文字)、タイプで明瞭に記載する。
 - (i) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名(教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順に和文で記載する。筆頭者名と、2語以内の running title を付記する。
例：山田、ほか：前立腺癌・PSAP
 - (ii) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
 - (4) 英文原稿はA4版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
 - (5) 図(Fig.)、表(Table)は必要最小限にとどめ、普通論文では図10枚、表10枚まで、症例報告では図5枚、表3枚までとする。
図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したもの(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
 - (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる(アルファベット順不可)。その数は30までとする。
例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{8,11-13)}によると…

雑誌の場合—著者名(全員)：標題、雑誌名 巻：最初頁-最終頁、発行年

例 1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. *J Urol* 124: 205-207, 1980

例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, 飛田収一, 大石賢二, 東 義人, 岡田裕作, 川村寿一, 吉田修: 経皮的腎砕石術(PNL)および経尿道的尿管砕石術(TUL)にみられる発熱について, 泌尿器科紀要 33: 1357-1363, 1987

単行本の場合—著者名(全員)：標題、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: *Urolithiasis Research*. Edited by Fleish H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976

例 4) 大保亙一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学，診断・治療編。吉田 修編，第1版，pp.259-301，南江堂，東京，1986

- (7) 原稿は，オリジナル1部とコピー2部（図，写真は3部ともオリジナル）を書留で送付する。万一にそなえて，コピーを手元に控えておくこと。

（原稿送付先）

〒606 京都市左京区聖護院山王町18

メタボ岡崎 301 号

泌尿器科紀要刊行会宛

- (8) 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。
- (9) 論文の訂正：査読審査の結果原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，編集部宛送付すること。なお，Editor の責任において多少字句の訂正をすることがある。
- (10) 校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
- (11) 投稿にあたっては，本誌を十分参考にして体裁を守ること。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする。

迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算したものを申し受ける。

- (2) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。

- (3) 薬剤の効果，測定試験の成績，治療器械の使用などに関する研究論文（治験論文）については，掲載料を別途に申し受ける。

4. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer・PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details refer to a recent journal.

泌尿器科紀要 第35巻 第10号 1989年10月25日 印刷 1989年10月31日 発行

発行 吉田 修 顧問 加藤 篤 二 発行所 泌尿器科紀要刊行会

〒606 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎 301 号 電話 (075) 752-0100

FAX (075) 752-0190

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入